

めざす児童生徒像

- ・自ら考え、判断し、行動する子
- ・広い心で人を思いやり、認め合って協力する子
- ・よりよいものを創り出すために挑戦する子

学校教育目標
Resilienceを育て
共によりよい未来を創る子どもの育成



※児童生徒結果－教員結果・保護者結果

	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目		数値・アンケート結果（％）			※差	達成状況の分析	改善策
					教員	児童生徒	保護者			
（学校で設定） 学校重点項目	レジリエンスの育成	各項目で＋90%以上	①	自分で考え、判断して行動することができる。						
			②	広い心で人を思いやり、認め合って協力できる。						
			③	よりよいものを創り出すために挑戦できる。						
			④	レジリエンスの育成を意識した声かけや取組ができた。						
			集計							
	項目	目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目						達成状況の分析	改善策
	働き方や業務の改善	①②がいずれも80%以上	①	職員は業務改善への意識が高い。						
			②	時間外勤務を月平均30時間以内に減少させるために、各自が業務の改善に取り組んでいる。						
			③	学校は業務内容を見直し、学校が担うべき業務改善が進められている。						

	項目		目標指標	評価達成度アンケート内容・調査項目		数値・アンケート結果（％）			※差	達成状況の分析	改善策
						教員	児童生徒	保護者			
小松市共通重点項目	指導力の向上	学校研究	①②の平均が 中間…85%以上 年度末…90%以上	①	研究主題に迫る目指す授業スタイルを共有し、具体的な取組を共通実践している。						
				②	「MEDORE」の6つのポイントを踏まえた授業改善に取り組んでいる。						
				集計							
		「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善	⑤の教員及び児童生徒の割合が 中間…85%以上 期末…90%以上	①	児童生徒は、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいる。						
				②	児童生徒は、学級の友達と間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、 新たな考えに気づいたり することができている。						
				③	児童生徒は、自分の考えを発表する機会では、自分の考えがうまく伝わるよう、資料や文章、話の組み立てなどを工夫して発表している。						
				④	児童生徒は、 学習した内容について、分かった点や、よく分からなかった点を見直し、次の学習につなげることができている。						
				⑤	児童生徒は、 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用し、友達と考えを共有したり比べたりすることができている。						
				集計							
	学力の向上	カリキュラム・マネジメント	①②③④ 全ての項目が 中間…85%以上 期末…85%以上	①	指導計画の作成に当たっては、学校の教育目標の実現に向け、各教科等の教育内容を教科横断的な視点で組み立てている。						
				②	児童生徒や学校、地域の実態を捉えて教育課程を編成し、実施し、評価して改善を図る一連のPDCAサイクルを確立している。						
				③	定期的な検証結果を基に、現状の変化や取組の成果と課題を全教職員で共有し、さらなる次の取組につなげている。						
				④	校区の小・中学校間で学力について情報交換し、課題について共有している。（小中連携）						
				集計							
		学習方法	①② 児童生徒の割合が 中間…80%以上 期末…85%以上 ③ 教員の割合が 中間…80%以上 期末…85%以上	①	児童生徒は、 分からないことや詳しく知りたいことがあったときに、自分で学び方を考え、工夫することができている。						
				②	児童生徒は、 学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を活用し、自分のペースで理解しながら学習を進めることができている。						
				③	個々の課題に応じた解決方略の提示を行い、一人一人の最適な学びを支えるアドバイスができている。						
				集計							